

第16回街づくりA I 研究会（令和4年12月19日）

「GTFS とバスデータ利活用の現状」

元国土交通省、元日本都市計画家協会理事の西澤明氏をお招きし、設立の準備を進めていた「日本バス情報協議会」のその後の活動、GTFS 普及活動について現状をお聞きした。

（注：GTFS（General Transit Feed Specification）は、経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的として世界標準の公共交通データフォーマットです。一定のルール（項目やファイル名の形式）に沿って作られたTXT ファイル群で構成され、“公共交通の情報を利用者に届ける”手段の1つとして世界で普及が進み、多くの地域でオープンデータとして公開されています。バスだけでなく、鉄道・バス・船・飛行機など、様々な公共交通に利用することが可能。）

西澤明氏は現在、

地域・交通データ研究所 所長

一般社団法人日本バス情報協会 専務理事

標準的なバス情報フォーマット広め隊

東京大学空間情報科学研究センター 客員研究員

東京大学大学院情報理工学系研究科附属ソーシャル ICT 研究センター 特任研究員

を担っておられ、氏の研究成果である「西沢ツール」(<https://nszw.jp/>) 上に、停留所の位置座標を選択し、仮想バス路線を設置することができる。

例えば、千葉県南房総に西沢ツールで仮想バス路線を設定すると下記の図のような風景となる。これによって、バス事業者でなくても市民が自主的にバス路線の設置を検討する技術が生まれたと評価できる。

